

いちご「女峰」の半促成栽培における 保温開始時期および頂花房摘除の影響

1. 試験のねらい

女峰は促成栽培に適するが、2～3月に商品価値の高い果実が得られる半促成栽培への適応が望まれ、前報（第7号）においては高い栽培適応性を確認した。そこで、今回は保温開始時期と頂花房摘除の影響について検討した。

2. 試験方法

保温開始時期を5℃以下の低温遭遇時間で0、150、200、300、400時間とし、頂花房摘除の有無を組み合わせた8処理とした。

採苗は8月21日に行い、定植は10月16日に畝幅1.1m、株間21cmの2条高畝で行い、施肥量はa当たりN1.8、P₂O₅2.7、K₂O1.8kgとした。

3. 試験結果

- (1) 生育は保温開始時期が早くなるほど葉柄長が短くなる傾向であったが、頂花房摘除の影響はあまり認められなかった。
- (2) 頂花房の開花および収穫始期は、保温開始時期が早いほど早くなった。第1次腋花房の開花および収穫始期も保温開始時期が早いほど早くなる傾向であり、頂花房摘除の有無では摘除区が無摘除区に比べて保温開始300時間区で4日遅れたほかは1～2日早く開花し、収穫始期も摘除区がいずれの保温開始時期においても無摘除区に比べて早くなった。
- (3) 総収量は、保温開始時期では保温開始が遅くなるほど多収となる傾向であり、400時間区が最も多かったのに対して、150時間区は第1次腋花房以降収量が低下しかかなりの低収となったが、400時間区は頂花房より多収であった。

また、頂花房摘除の有無ではいずれの保温開始時期においても摘除区が無摘除区に比べ多収となったが、その摘除の効果は第1次腋花房においては保温開始時期が遅い場合に少なく、第2次腋花房においては保温開始時期が遅い場合に多くなった。

一果重は保温開始時期が遅いほど、また頂花房を摘除した区が重くなる傾向で、第1次腋花房において著しく認められたが、頂花房の摘除による効果の方が大きかった。

4. 成果の要約

「女峰」を用いた半促成栽培では、前報（第7号）と同様に保温開始時期は5℃以下の低温遭遇時間で、200時間以上が必要と認められたが、頂花房を摘除することにより収穫始期は遅れるものの第1次腋花房以降の果実肥大や収量性が増大し、総収量も頂花房を摘除しない場合よりも多収となることが明らかとなった。

(担当者 栃木分場 植木正明)

表-1 葉柄長、開花および収穫始期

No.	保温開始時期 (保温開始日)	摘除	葉柄長 (cm)				開花始期			収穫始期	
			1月	2月	3月	4月	頂花房	1次*	頂花房	1次*	2次**
1	150時間(12月 3日)	有	5.6	5.8	9.3	9.4	-	1.19	-	2.20	3.26
2		無	5.2	6.3	8.3	7.5	12.22	1.20	2.20	3.12	4.1
3	200 (12月 8日)	有	5.1	7.8	13.1	13.0	-	1.24	-	3.13	3.30
4		無	5.0	7.5	11.8	10.7	12.30	1.26	2.23	3.16	4.1
5	300 (12月15日)	有	5.2	11.9	18.0	17.8	-	1.31	-	3.15	3.26
6		無	5.5	13.2	16.7	15.1	1.5	1.27	3.7	3.16	3.30
7	400 (12月22日)	有	7.3	18.8	21.7	21.9	-	2.3	-	3.16	4.1
8		無	7.4	20.3	22.2	20.0	1.12	2.4	3.9	3.20	4.10

注：* 1次は第1次腋花房，** 2次は第2次腋花房。

表-2 月別収量、花房別収量および一果重

No.	着花数		月別収量 (g/株)				花房別収量 (g/株)			花房別一果重 (g)				
	頂花房	1次	2月	3月	4月	5月	計	頂花房	1次	2次	頂花房	1次	2次	平均
1	-	17	14	156	135	106	411	-	188	223	-	14.9	13.9	14.3
2	17	17	39	173	56	98	366	140	88	138	12.0	11.3	12.2	11.9
3	-	17		168	145	136	449	-	200	249	-	16.0	14.0	14.9
4	16	15	12	216	88	112	428	129	129	170	11.9	12.7	12.4	12.3
5	-	15		158	142	165	465	-	186	279	-	16.9	15.0	15.7
6	15	16	2	217	91	118	428	120	142	166	11.6	13.5	13.2	12.8
7	-	17		141	150	184	475	-	178	297	-	16.7	14.6	15.3
8	16	17		230	102	124	456	162	128	166	12.0	15.4	13.3	13.3

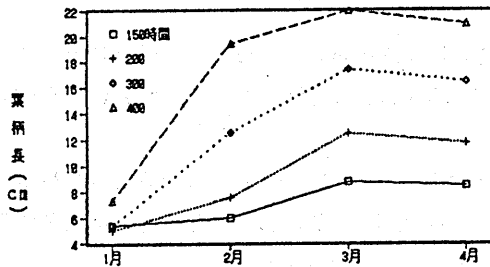


図-1 保温開始時期別葉柄長

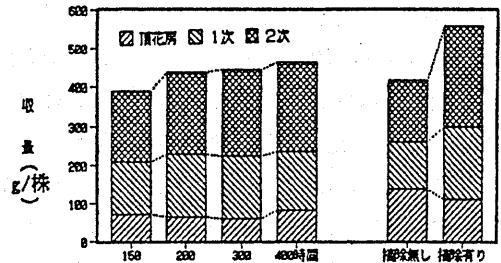


図-2 要因別収量

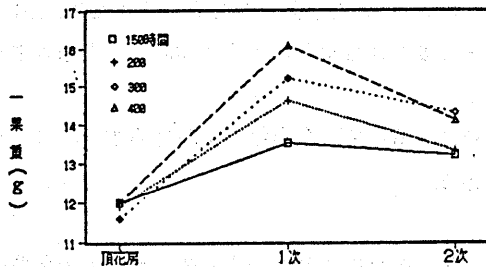


図-4 花房別一果重

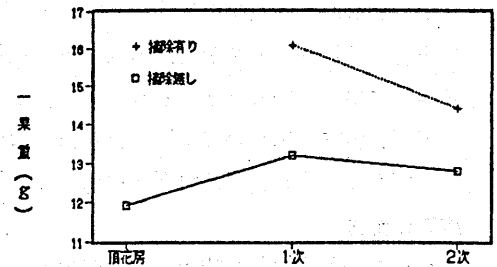


図-3 保温開始時期別一果重